

2017年1月12日付 タウン情報「百人一首大会」

タウン

白熱の百人一首大会

松本秀峰1~3年生 古典に親しみ



素早く手を伸ばし、札を取る生徒

松本市の松本秀峰中等教育学校1~3年生（246人）は7日、百人一首大会を校内で開いた。日本の伝統文化に触れ、古典に興味、関心を持つてもらおうと、新春の恒例行事として開き7年目。競技かるたの公式ルールにのつとり、各学年とも白熱した試合を見せた。

（高山佳晃）

1年生2クラス計80人は、1チーム4人の10班に分かれ、クラス対抗の団体戦を行った。1回戦で獲得枚数の多かった各クラス上位3チームは、今回特別にたたみ部屋の伝統文化室で2回戦を行い、3位以上を表彰した。

2回戦はCDによる音声ではなく、教員が読み手を務め、正座した生徒は身を乗り出し、札を取り合った。1回戦で39枚、2回戦で35枚を取り、チームの総合優勝に貢献した中山実音さん（2組）は「誰よりも速く札が取れた時が一番うれしい。百人一首で学んだことをこれから古典学習に生かせたら」と話した。

1年生が古典を学ぶのは3学期からで、そ

の導入部分として10月から百人一首を授業で取り上げるなど準備してきた。冬休みには、100首の暗唱を課題とし、生徒が下の句の札を手書きするなどして覚え、大会に臨んだ。同校は「高校になる」と、古典で専門的な文法などを学ぶ中、中学では、まず音から古典に親しむきっかけになれば」と期待していた。